

審査会会長からのコメント

今回は初めてこの助成金を申請する団体が多く見られました。これは地域社会の課題を発見し、解決のために自分たちで何とかしたいという人たちが増えていることの表れであり、審査会としても大変嬉しく思っています。

継続して申請された団体は、地域社会の他の団体や若い世代を巻き込むなど、事業の新しい展開を図っていこうという取り組みを評価しました。

他方で、今回は「にわとり」「スクラム」「トライ」への申請がなく、残念に思いました。助成金制度ができてから今年で10年を迎えますが、過去の申請状況をみると、「たまご」であった団体が「ひよこ」に、「ひよこ」が「にわとり」へと成長しておられます。これまでの「ひよこ」や「にわとり」に申請されてきた団体がさらに次の段階に発展して応募してこられてもいいのにと考えたものです。

助成を始めてからの10年間、たくさんの団体、グループが応募してこられました。子どもたちが笑顔で過ごせるようにしたい、歴史や文化を伝えたい、まちに活力をとりもどしたい、高齢者や障がいのある方が生きやすいまちにしたい、子育てを応援したい

等々、実にいろんな取り組みがありました。プレゼンテーションやヒヤリングで直接、お顔を拝見し、熱い思いを持った方々がこんなにおられるのだということを素晴らしいと感じました。

ただ、残念なことは、個々の取り組みや思いが繋がっていないのではないか、情報や経験が共有化されていないのではないかということです。そうしたことのお役に立てばと、昨年度の報告会では、市民団体のつながりをつくるワークショップを開催しました。地域社会には専門性やノウハウを有するさまざまな人材や団体・機関がおられます。いろんな機会を利用して、多様な人たちと出会い、連携して活動を継続、発展していただけることを願っています。そして、皆さんの活動を一助となるようこの助成金制度を活用していただければと思っています。